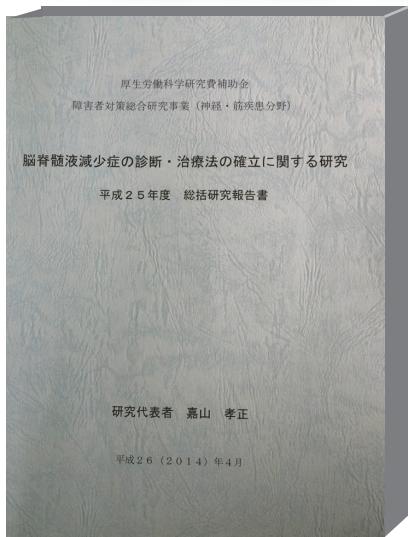
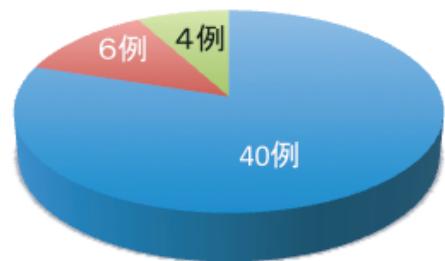


嘉山厚生労働省 脳脊髄液減少症研究班は「世界的な研究へ。。。」 2013年度事業報告の内容は、その真意は・・



国研究班の登録50症例中



- 水俣病と同じ方向を進んでいる
- 子どもの脳脊髄液減少症はほぼ国の基準にあてはまらない。子どもの研究は考えていない
- 世界の医師から多くの非難を受けた国際頭痛学会ICHD-2は5年とその存在意義を持たなかった。今 国の作ろうとしている、周辺病態の診断基準もICHD-2の二の舞いになる。
- 腰椎部の漏れはほぼ除外へ
- プラッドバッチ治療は明らかに効果のある治療と判断

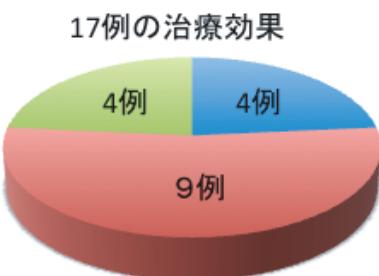
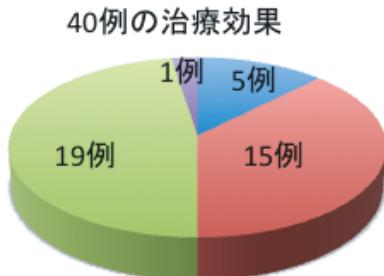
2013年6月～「周辺病態とプラッドバッチ治療の研究を開始」 2014年2月までに50症例が登録
 その結果が下記の図 脳脊髄液減少症確定は40例

■ 確定
 ■ 疑い
 ■ 否定

脳脊髄液漏出症と判定された40例を
 山形大学放射線科 細矢教授他1名を中心
 に中央判定、17例に絞られる。
 その内容とは？ 除外された23例は？

しかし治療結果は確実とされた40例と細矢教授が判定した17例の治療結果には
 さほど大きな差がなかった。 23例は今後の病名は？

真の脳脊髄液減少症の研究(周辺病態の研究を急げ)



脳脊髄液漏出症 低髄液圧症
 全国各地で労災認定33件 厚労省調査

